

教育相談通信

SWEETFISH



“一歩ずつ”

徳島県立那賀高等学校

教育相談課

(平成30年7月20日(金)発行)

猛暑の続く毎日ですが、本日、1学期の終業式を迎えました。皆さんにとって、この1学期間の高校生活はいかがでしたか。順調に思える日々においても、学習面や対人関係において、悩みが生じたこともあったことでしょう。日々の生活の中においては、予測できない出来事が時として起こるものです。

この度の西日本豪雨被害においては、多くの尊い命が奪われ、また、負傷された方々や大切な家屋を失い絶望感にうちひしがれている方々など、情報を知る度に、胸が締め付けられる思いがします。そのような中、猛暑にも心折れず、熱中症の危険にさらされながらもボランティアの方々が奮闘されている姿が、連日、新聞やテレビで報道されています。私たちも、何か自分にできることを考えて、被災された方々の力になれることを実践していきたいものです。

さて、今年度もスクールカウンセラーの佐藤幸男先生が、隔週の火曜日に来校され、生徒・保護者・教員の相談にのってくださっています。先生には、昨年のこの時期に、那賀高生へのメッセージをいただき、教育相談通信に掲載させていただきました。振り返ってみますと、

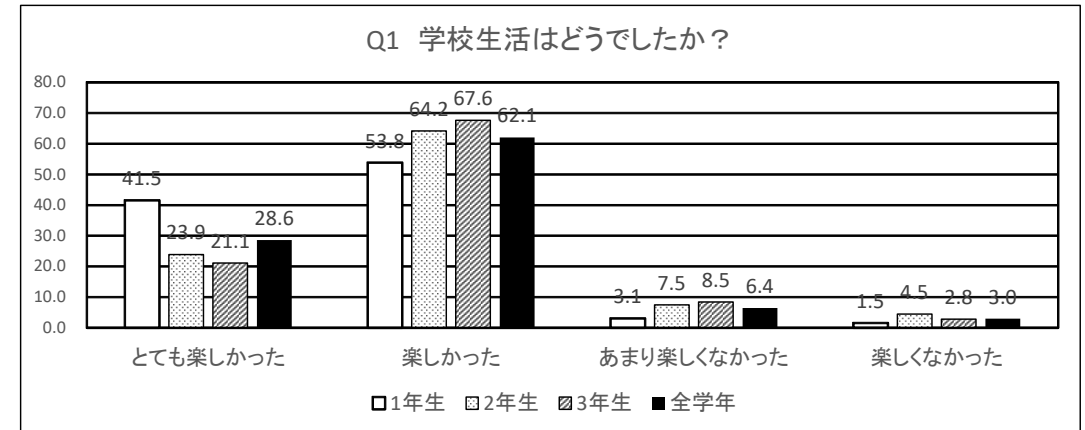
※カウンセラーとはしっかりと話を聴く人です。 悲しみ、絶望や怒り、様々な気持ちをありのまま受け止めることに力を注ぎます。カウンセラーにしっかりと聴いてもらうことで整理がついたり、あなたの思いをありのままカウンセラーが受け止め、理解に努めることで、あなたは「自分のことを分かってもらえた。」とホッとできるかもしれません。そんなお手伝いができることを望んでいます。
※カウンセラーはあなたの悩みを解決してくれる人ではありません。 もちろん「どうしたらいいんですか。」と苦しみを語ってください。その苦しみを受け止め、一緒に考えていきたいです。もしあなたが相談室に来てくれたら、勇気を出して来てくれたのだと、まず認めて、お迎えしたいです。

相談室の利用方法ですが、担任の先生か中川先生に相談希望を言って、予約をとってください。場所は、南館1階の調理室の隣です。原則、隔週火曜日の11時から17時に来ています。誰かにしっかり話を聴いてもらいたいと思ったら、スクールカウンセラーの佐藤を思い出してください。ありのままの気持ちを話しに来てください。お待ちしております。

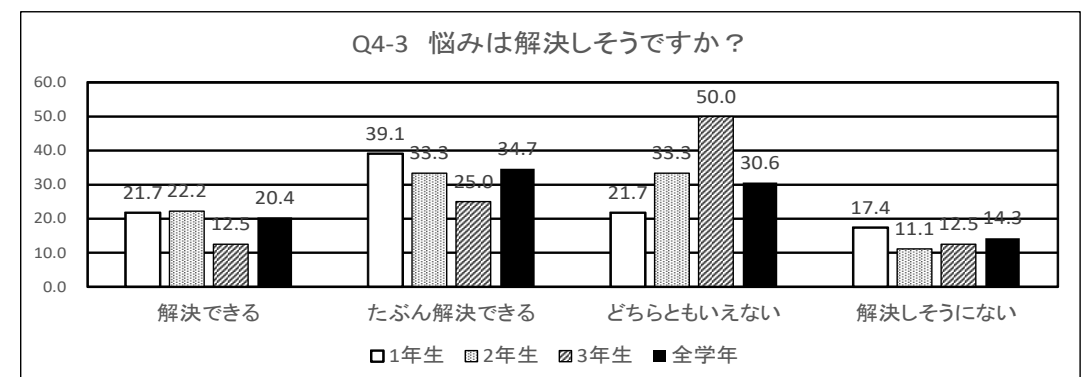
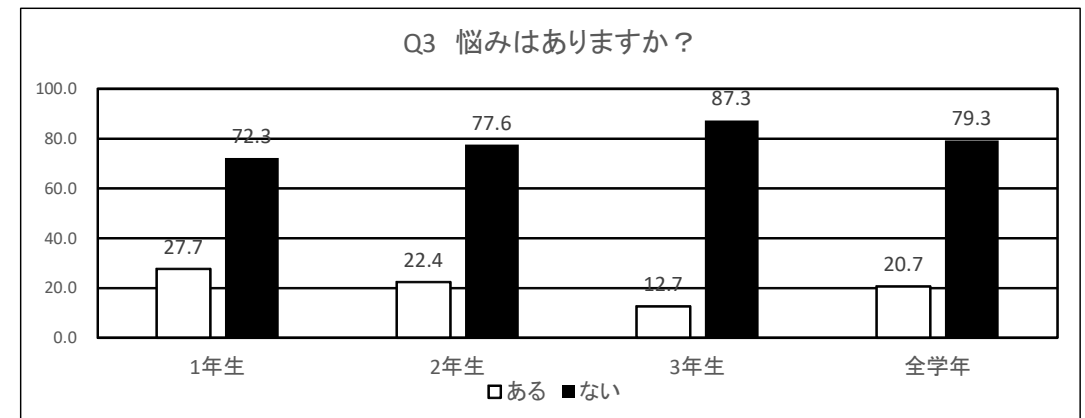
佐藤先生のようなスクールカウンセラーは、臨床心理士でもあります。現在は、さまざまな社会的要因により、学校や職場、家庭などで、心にストレスをためている人が多くなっています。臨床心理士は、心の問題をかかえている人に対して、心理学的な立場から援助を行う専門職です。医療や保健、教育、福祉、司法、産業といった多岐にわたる領域で、クライアント（相談者）の心に寄り添いながら、悩める方々を支えているのです。県内の高等学校では、スクールカウンセラーの配置は十分とは言えない状況です。那賀高生の皆さんは、佐藤先生を信頼し、相談事があれば、是非、先生と会ってみてください。



学校生活に関するアンケート調査結果（全学年）



全学年において、「とても楽しかった」「楽しかった」との回答の合計が、90.7%となっています。



悩みのある生徒は、全学年平均では20.7%となっています。その内の55.1%の人は、解決するという展望を持っているようです。

(文責 教育相談課 中川)